



これでわかる!

決算のあらまし

平成26年度決算および財政状況の概要

市が実施するさまざまな事業は、市民の皆さんが納めた税金のほか、国・県からの支出金、市債などを財源としています。平成26年度決算がまとまり、8月定例会議会で認定されましたので、報告します。

※数値は四捨五入のため、合計が合わない場合があります



どう使われたの?
私たちの税金

一般会計 福祉や教育、道路の整備など
行政運営の基本的な経費を賄う会計

歳入の主な増減

前年度比 +42億円(+3.9%)

国・県支出金…+15億円(+7.5%)

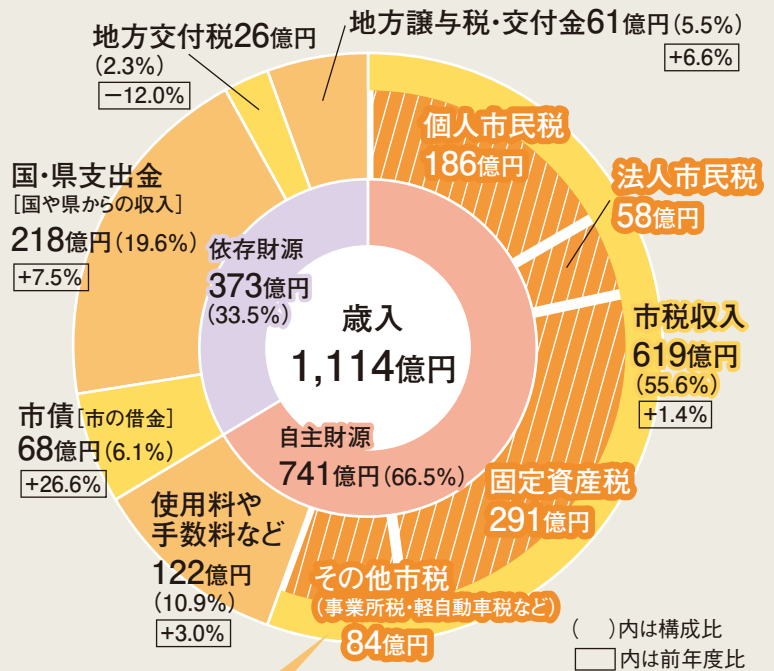
臨時福祉給付金給付事業費補助金
(国庫支出金)の増など

地方譲与税・交付金…+4億円(+6.6%)

消費税率引き上げによる地方消費税
交付金の増など

地方交付税…-3億円(-12.0%)

市税の増収などによる交付額の減



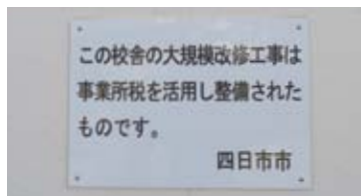
()内は構成比
□内は前年度比

事業所税 平成26年度の事業所税は28億円

人口30万人以上の都市で一定規模を超える事業を営む
事業主から納めていただく税金

主な充当先

廃棄物処理施設などに	4億円
道路・公園・下水道などに	11億円
教育文化施設などに	13億円



事業所税を充てて改修した校舎にはその旨を明示



羽津小学校

特別会計など

特定の事業を行うために
一般会計と区別して
運営する会計

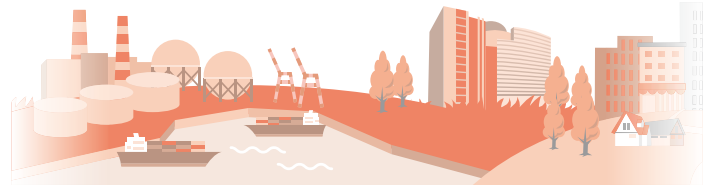
項目	歳入	歳出	実質収支
競輪事業	182億円	172億円	10億円
国民健康保険	332億円	320億円	12億円
食肉センター食肉市場	6億円	6億円	8百万円
土地区画整理事業	4億円	4億円	1千万円
住宅新築資金等貸付事業	3千万円	1千万円	2千万円
公共用地取得事業	7億円	7億円	0百万円
農業集落排水事業	7億円	7億円	8百万円
介護保険	216億円	203億円	13億円
後期高齢者医療	53億円	53億円	2千万円
桜財産区※	4千万円	2百万円	3千8百万円
合計	808億円	772億円	36億円

※財産管理などを行う特別地方公共団体。桜財産区管理会が、桜地区にある山林の管理などを行っています

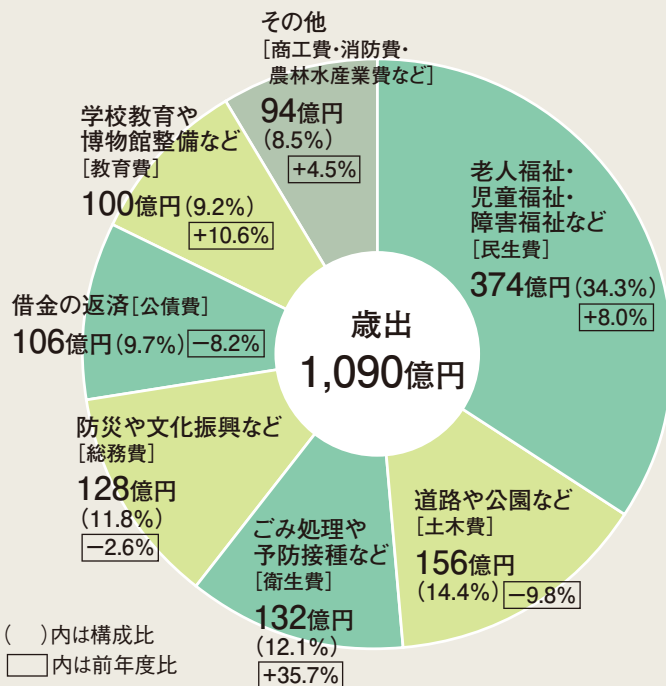
企業会計

住民の福祉の増進を目的として
主に料金収入によって
経営される会計

項目	収益的収入	収益的支出	純利益 (-損失)
水道事業	77億円	69億円	8億円
病院事業	195億円	216億円	-21億円
下水道事業	144億円	129億円	15億円



歳入 1,114億円 - 歳出 1,090億円 - 翌年度へ3億円繰越 = 実質収支額 21億円の黒字

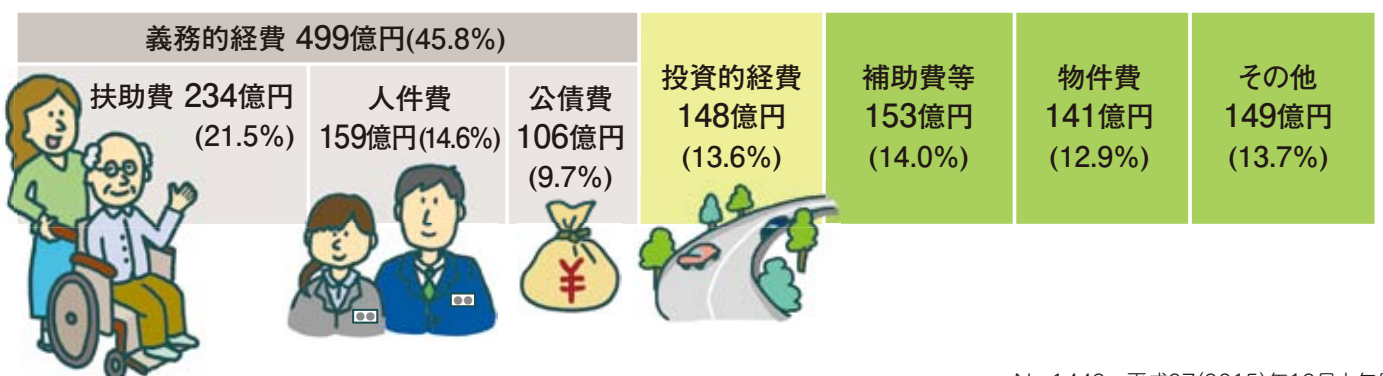


歳出の主な増減

前年度比 +46億円 (+4.4%)

- 衛生費…+35億円 (+35.7%)
新総合ごみ処理施設の建設工事の本格化など
- 民生費…+28億円 (+8.0%)
臨時福祉給付金、子育て世帯臨時特例給付金の創設など
- 教育費…+10億円 (+10.6%)
博物館・プラネタリウムのリニューアルなど

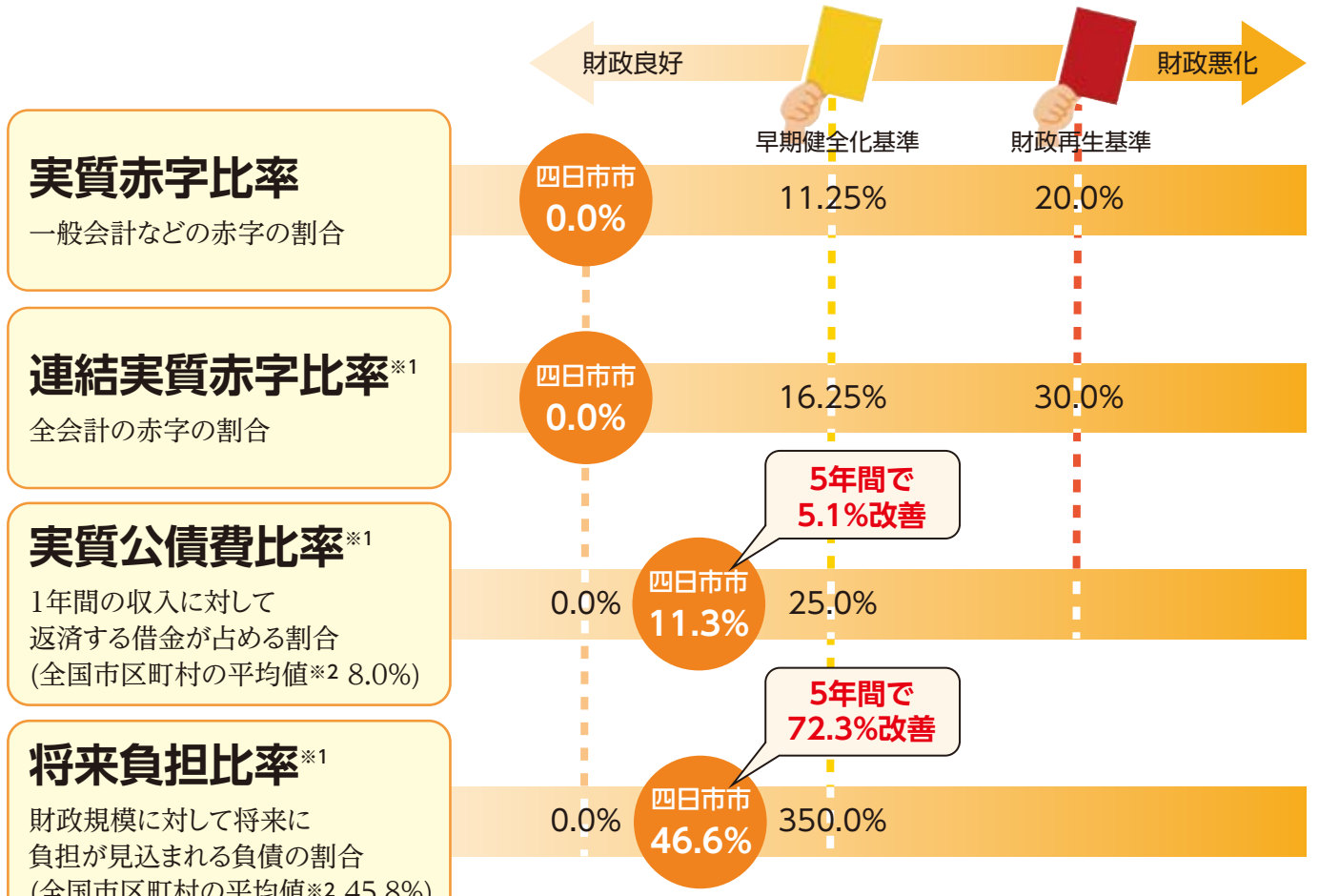
歳出1,090億円の性質別内訳





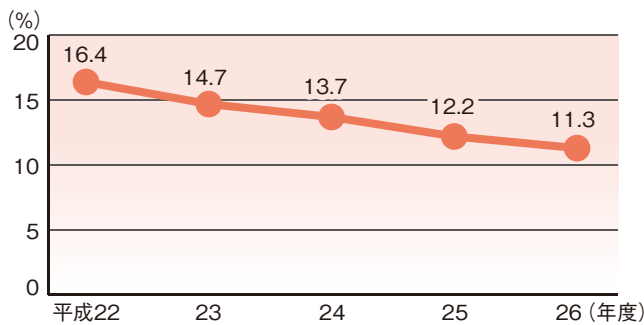
四日市市の財政状況は改善が進んでいます

平成26年度の決算を基に、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の規定による4つの指標について、健全化判断比率を算出しました。本市は、いずれの指標も昨年度の数値から改善しており、早期健全化団体や財政再生団体となる基準を下回る状況が続いています。このことから、本市の財政状況は着実に改善が進んでいることがわかります。



※1 一般会計、特別会計、公営企業会計のほか、公社などの関連団体を含めた会計での比率
※2 総務省発表の速報値に基づいており、今後変動する場合があります

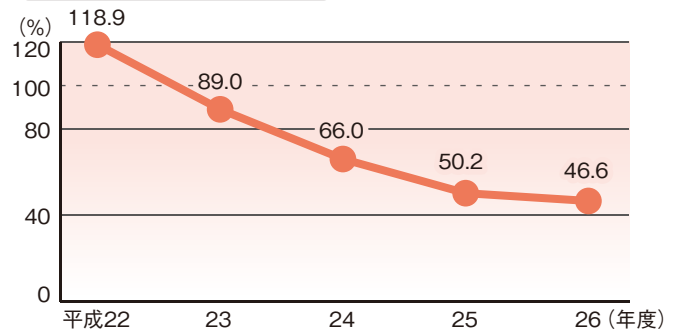
実質公債費比率



早期健全化基準の25%を大きく下回るとともに、過去に発行した市債の償還が進み、毎年、改善していますが、平成26年度決算における全国平均8.0%と比較すると、本市の数値はまだ上回っています。

今後も、引き続き市債の計画的な発行に努め、改善に取り組みます。

将来負担比率



早期健全化基準の350%を大きく下回るとともに、毎年、改善していますが、平成26年度決算における全国平均45.8%と比較すると、本市の数値は全国平均を上回っています。

今後も、引き続き負債の削減に努め、財政健全化に取り組みます。



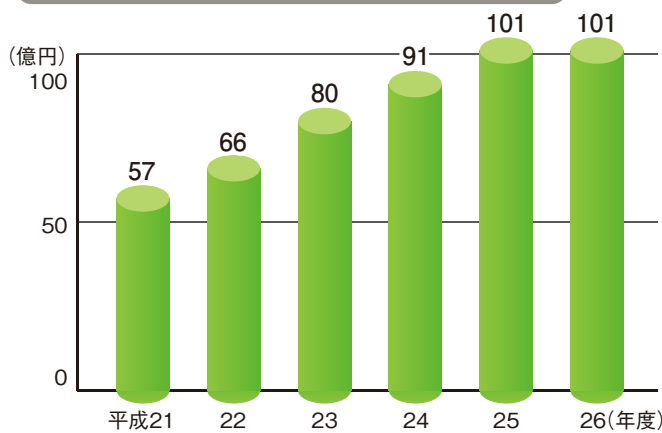
持続可能な行財政運営の確立に努めています

市では、健全な財政運営と総合計画の着実な推進の両方の実現を目指し、「行財政改革プラン2014(平成26~28年度)」を策定しています。

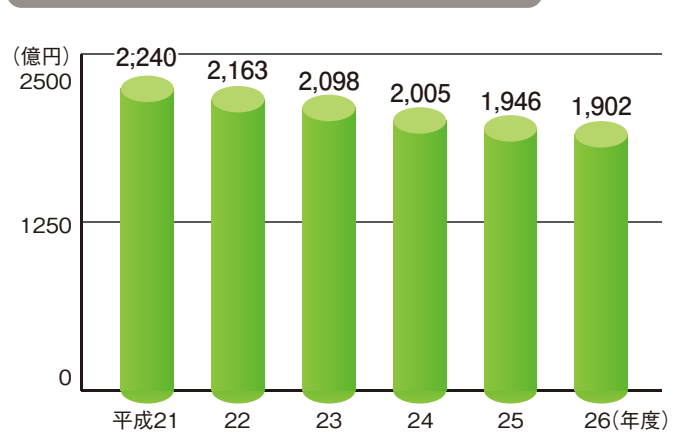
その中で、「持続可能な財政基盤の確立」という視点から、災害など不測の事態や、景気変動などによる減収に備えるため、財政調整基金の確保を進めています。平成26年度においては、年度末残高で100億円を確保できました。

また、「健全な財政運営」という視点から、市債発行額の抑制に努めた結果、全会計の市債残高の合計は1,902億円となり、対前年度比で44億円減少しました。

市の貯金(財政調整基金)の推移

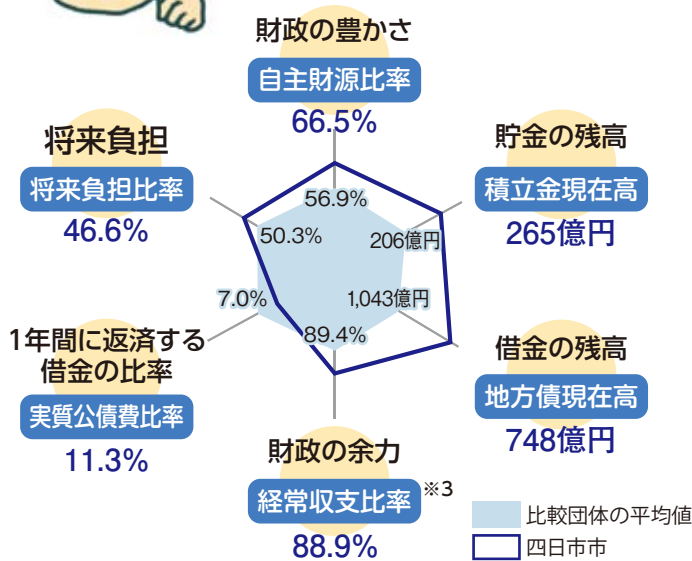


市の借金(全会計市債残高)の推移



他都市と比較すると・・・

各団体から提供のあった数値に基づき算出しています(平成27年8月時点)



※3 扶助費など制度的に支出することが義務づけられている経費が一般財源に占める割合。数値が低いほど弾力性がある

本市は、市税などの自主財源比率が他団体と比較して高い水準にあり、国・県支出金などに大きく依存しない構造となっています。

財政指標の比較としては、地方債現在高は平均より低くなっていますが、過去に発行した市債の償還額の割合が高いことから、実質公債費比率は、比較団体の平均値より高い水準となっています。

このような状況を踏まえ、一層の財政の健全化を進めていく必要があります。

比較団体 中核市または中核市の要件を満たす都市のうち、概ね人口30~35万人の都市

青森市、秋田市、郡山市、川越市、越谷市、岐阜市、豊橋市、岡崎市、豊田市、春日井市、一宮市、大津市、吹田市、明石市、高知市

このほかにも、民間企業の手法を用いた財務諸表など、さまざまな角度から財政状況を分析しています。詳しくは、ホームページを参照してください。(http://www5.city.yokkaichi.mie.jp/menu68040.html)

平成26年度の主な事業

本市では、「四日市市総合計画(平成23~32年度)」に掲げる5つの基本目標に応じて、3カ年ごとに実施計画として「推進計画(第2次推進計画は平成26~28年度)」を策定しています。

これらの推進計画事業へは重点的に財源を配分し、効果的に事業を推進しています。平成26年度に実施した事業の成果の一部を紹介するとともに、主要な事業を紹介します。

基本目標
1

「都市と環境が調和するまち」を目指して…

決算額 84億円

事業

ピックアップ

新総合ごみ処理施設整備事業 34億4,942万円

平成26年度決算額(額が大きい順) (百万円)



老朽化が進んだ北部清掃工場に替わる新たなごみ処理施設の整備を進めています。単にごみを処理するだけでなく、ごみ発電によるエネルギーの活用や、資源回収を行う施設として、平成28年春に稼働する予定です。

1	新総合ごみ処理施設整備事業	3,449
2	公共下水道事業(汚水)	2,086
3	水道整備事業	951
4	四日市公害と環境未来館整備事業	559
5	南部埋立処分場整備事業	442

新総合ごみ処理施設(名称:四日市市クリーンセンター)

基本目標
2

「いきいきと働ける集いと交流のあるまち」を目指して…

決算額 5億円

事業

ピックアップ

企業立地奨励金交付事業 3億7,125万円

平成26年度決算額(額が大きい順) (百万円)



四日市の産業の発展のために、企業立地奨励金交付事業を行っています。コンビナート企業が高付加価値製品の増産を目指して行った設備の増設・更新など、46件の事業に対し、交付を行いました。

1	企業立地奨励金交付事業	371
2	民間研究所立地奨励金交付事業	92
3	買い物拠点再生事業	12
4	観光推進事業	6
5	茶業振興拠点整備事業	4

増設を行ったプラント設備

基本目標
3

「誰もが自由に移動しやすい安全に暮らせるまち」を目指して… 決算額 41億円

事業

ピックアップ

防災システム整備事業 3億1,108万円

平成26年度決算額(額が大きい順) (百万円)



災害が発生した場合、正確な災害情報や避難情報などを、いち早く地域住民などに発信するために、防災行政無線のデジタル化を進めるとともに、屋外拡声子局(スピーカー)を67局から117局に増設しました。

1	総合治水対策推進事業【公共下水道事業(雨水)】	1,060
2	道路橋梁整備事業【主要道路リフレッシュなど】	717
3	公共施設アセットマネジメント事業	701
4	防災システム整備事業	311
5	避難施設等整備事業	214

防災行政無線操作システム

基本目標 **4** 「市民が支え合い健康で自分らしく暮らせるまち」を目指して… **決算額 21億円**

事業 **ピックアップ**

学童保育推進事業 2億7,326万円



新築した学童保育所

放課後などに家庭が留守となる児童の健全育成とその保護者の就労を支援するため、学童保育所の運営費や、施設の整備費などを補助しました。

平成26年度は、4カ所の学童保育所が新築されました。

平成26年度決算額(額が大きい順) (百万円)

1	子育て関係医療費助成事業	802
2	学童保育推進事業	273
3	特別保育拡充事業	240
4	在宅介護支援センター運営事業	171
5	保育所整備事業	147

基本目標 **5** 「心豊かな“よっかいち人”を育むまち」を目指して… **決算額 27億円**

事業 **ピックアップ**

空調設備整備事業 1億8,363万円



空調を整備した図書室

学習環境を改善するため、小・中学校の特別教室(図書室、視聴覚室、音楽室など)に空調設備を順次整備していきます。平成26年度は、小・中学校の図書室に空調設備を整備しました。

平成26年度決算額(額が大きい順) (百万円)

1	博物館リニューアル事業	1,132
2	校舎改築事業	574
3	少人数学級拡充事業	239
4	空調設備整備事業	184
5	途切れのない指導・支援事業	179

総称は **そらんぽ** 四日市に

～市立博物館・プラネタリウム、四日市公舎と環境未来館～

平成27年3月、市立博物館とプラネタリウムのリニューアルオープンに併せ、新たに四日市公舎と環境未来館が同じ建物内にオープンしました。

この3施設は、本市の歴史・文化、産業と環境、宇宙・科学に関する総合的な情報を発信し、市内外の多くの皆さんに学んでいただく施設です。

このたび、3施設の総称を「そらんぽ四日市」と決定しました。これは、**青空**を取り戻した四日市、博物館常設展の「**時空**街道」、プラネタリウムの「**宇宙**(そら)」をイメージした“そら”と、3施設を散歩するように巡って、学んでいただくことをイメージした“さんぽ”を組み合わせた造語です。

ぜひ、皆さんも「そらんぽ四日市」にお越しください。



編集後記

今回の特集は、皆さんに本市にはどのくらいの収入があり、どのような事業に支出しているのかについて、皆さんに興味を持っていただきたいとの思いから、紙面づくりを進めてきました。この特集をきっかけに、本市が行っているさまざまな取り組みに注目していただければ嬉しいです。(財政経営課 伊藤、広報広聴課 堀田)